

基礎研 レター

北イタリアのまちづくり事例に学ぶ 公共空間活用の重要性

～ その2: ボローニャ、創造都市における公共空間利用 ～

社会研究部 上席研究員 篠原 二三夫
(03)3512-1791 fshino@nli-research.co.jp

1—はじめに

初回のフィレンツェに続き、本稿はボローニャ訪問から得た公共空間利用の状況について報告する。

ボローニャ市はイタリアの中央部北側に位置するエミリア・ロマーニャ州の州都であり、市人口は先に訪れたフィレンツェよりやや多く 37 万人を超えているが、横ばい傾向にある。イタリアの産業の特徴は専門に特化した高度技術を持つ中小企業が集積していることであるが、ボローニャも中小企業がネットワークを形成し、地域経済の活力を保持してきた都市である。

訪問先のボローニャ・アーバンセンター (<http://www.urbancenterbologna.it/en/>) ⁽¹⁾の Giovanni Ginocchini 館長によれば、ボローニャは市民力が強く、世界でもいち早く「創造都市」の概念を提唱し、まちづくりにおいても常にイノベーションに取り組んできた都市である。総合大学としては世界最古のボローニャ大学があり、1年で8万人の市民が入れ替わる若者の力に満ちた都市でもある。

以下では、Ginocchini 館長から紹介されたまちづくり事業のうち、歴史的な旧市街地における2つの事業事例と、ボローニャ市の都市経済発展部テリトリ促進・部門間プロジェクト調整室の Giorgina Boldrini 女史が中心となって展開している、公共⁽²⁾の空家や空床、店舗、空地等の再活用を推進するインクレディブル (Incredibil) 事業について紹介する。いずれも、市民や起業者とともに、市が公共空間や施設の活用についてリーダーシップをとって支援・推進している事業である。

2—T-days 事業

T-days 事業は、世界歴史遺産に登録されているボローニャの旧市街地において市民や来訪者が自由に都市空間を歩き、楽しむことによって中心部の活性化を促そうという事業である。一見、銀座や新宿などの歩行者天国に類似した取り組みだが、既に市の中心部は交通規制ゾーンの指定下にあり、1日の交通量が2千台程度まで減少しているところに、さらに、中心部への特殊車両を除く自動車乗り入れ制限を厳しくし、歩行者優先の公共空間をつくるという点で違いがある。

(1) アーバンセンターは市が運営しているコミュニティ活動やまちづくり活動のための場である。ミラノなどにも同様のセンターがある。

(2) 市所有の空家や店舗等の施設、空地には、税の滞納などの事情によって物納されたり、収用されたりしたものや、市が出資して建設したショッピングセンターなどの空床や政策的に市が買い取った施設や土地などがある。

1. 事業主体

ボローニャ市交通局 (<http://www.comune.bologna.it/trasporti/notizie/2:10507/>)

2. 対象公共物

市中心部の Rizzoli 通り, Ugo Bassi 通り, Indipendenza 通りの 3 本の通りとこれらに入る連結部や広場からなる公共区間とエリア。これら 3 本の通りが T 字型になっているため、T-days 事業と名付けられている。

図1 T-days の実施対象地区 (Via Rizzoli, Via Ugo Bassi, Via Indipendenza)



(資料) Bologna Urban Center 資料を加工

3. 事業概要

(1) 事業背景

EU が推進する都心政策にしたがって、市の中心部における安全で魅力ある歩行者自由空間の形成を通じて市民と来訪者の回遊を促し、市の活性化を促すことが目的である。

(2) 事業内容

毎週土曜日の午前 8 時から日曜日の午後 10 時まで、中心部の T 字型の指定エリアへの自動車乗り入れを原則不可とし、歩行者と自転車だけが通行できるエリアとする。実施にあたっては、2011 年 2 月と 9 月に試行を行い、2012 年 2 月から社会実験を行いつつ、効果や影響を確認しながら、同年 5 月から実施に踏み切り、現時点で定着に至っている。

<http://www.urbancenterbologna.it/nuovo-centro/529-tdays-ogni-weekend>

(3) 事業スキーム

広場や道路、歩道、庭園などの公共施設の質的水準を高めるのと同時に、公共空間利用については、長期利用 (Permanent 1 年以上) と短期仮利用 (Temporary 1 年以下) に分けて、ルールづくりを行い、事業者や市民による活用を促進した。

指定エリアに入る通りは、時間が来るとゲートを閉めて自動車の進入を規制する。一部には時間が来ると自動的に進入や退出を規制するライジングボラード⁽³⁾を設け、自動的に車の規制を行っている。

(4) 事業評価

実施前に行った近隣住民会議では、地区の約 400 人の住民から約 200 の質問と約 300 の提案を受けている。ウェブには 1,700、ブログには 2 万を超すアクセスがあった。約 840 人から公開提案に対する意見等を得ており、アーバンセンターの You Tube チャンネルを通じて約 2,300 回の T-days に関

(3) ボラード (bollard) は、元々船を岸に繋留するために岸壁に取りつけた杭であるが、現在、道路や広場などに設置して自動車の進入を阻止する目的で設置される。これが時限的に開閉する装置をライジングボラードと呼ぶ。図 2 の右下の写真を参照。

する動画閲覧も行われた。

市がリードをとった事業であるが、住民参加を得ながらの実施であるため、市民からは大好評を得ている。週末には道路ではないまったく別の空間を提供した結果、市民団体による様々なイベントが展開され、にぎわいが形成され、住民が受ける T 字型エリアの印象は大きく変わっている。この事業を歓迎してくれたのはファミリー世帯と若い人たちである。

一方で、高齢者からは公共バス等が使えないため不便になったという声がある他、一部の商業者からは常にどこでも同様だが、不便な状況が多いという不平も出ている。

高齢者や障がい者向けには、郊外部から縁辺部、縁辺部同士を回遊できるような公共交通網を新設し、利便性改善のための試行を行っている。

この事業が続けられるのは、ボローニャ大学が位置し、地域に若い世代が多いためである。高齢者が多い都市では、今以上に、高齢者の移動に配慮した方法を採用する必要があるとのことである。

図2 T-days 実施エリアの様子やロゴ、市民の活動状況など



(資料) Bologna Urban Center Presentation

3—小さな路のプロジェクト

小さな路のプロジェクトは、非営利組織がコミュニティ活動のために、路上駐車空間などの公共空間を活用している事業である。市は、公共空間を市民活動利用のために認可し、情報提供を行うことによって、このプロジェクトを支援している。

1. 事業主体

事業主体は、Association “Centotrecento”という 2010 年に若い建築家 3 名が立ち上げた社会活動非営利組織である。活動を開始した通りの名前がチェントレチェント通りであることと、3 人で 100% を超えるということから Cento-tre-cento と名付けられている (<http://www.centotrecento.it/>)。

2. 対象公共物

道路、特に路上駐車帯や広場などの公共空間及びポルティコ⁽⁴⁾下などの準公共空間。

3. 事業概要

(1) 背景

住民同士の交流が希薄になり地域としての力が落ち、疲弊し始めたコミュニティの中で、お互いに地域の空間をシェアするという文化をひろめ、居心地を高めることで、コミュニティの再生を目指す試みである。多くの出会いの場と機会を創出することが Centotrecento の活動目的である。活動のための 3 つのビジョンは、(a) 市民同士を結びつけること、(b) 中間支援団体として、行政と市民との関係を仲立ちすること、(c) このための公共空間利用の促進であり、参加型ワークショップにコミュニティ内の公共空間を使うこととしている。

(2) 事業内容

文化的で楽しめる小さなイベントを開催するなど、市民の少しずつの参加と協働を通じてコミュニティの強化を図り、歴史的建物の維持管理等も含めた難しい課題に取り組めるようにする。小路に面する店舗を含め、市民にとって便利な空間をつくる。

具体的には 2 台分の路上駐車スペースの利用を市に認めてもらい、飲食による交流や学習の機会を設けるなど、徐々にできることから近隣の交流を進めている。

(3) 事業スキーム

路上駐車帯や歩道、広場、ポルティコ下などの公共空間利用の認可を市から取得し、テーブルや椅子、白板等の用具を持ち込み、コミュニティの場に一時的に転換して活用する。

(4) 事業評価

当初は Centotrecento による試行でしかなかったが、今では既に 1 年近く継続する事業となり、活動範囲は徐々に広がっている。住民等が自発的に行う活動も増加し、さらに他地区にまで住民主導による同様の活動が広がっており、ボローニャ市内の小路に新たな価値を与えつつある。

(4) ポルティコ (Portico) は、柱で支えられるか壁で囲まれた歩道上に屋根があるポーチである。ボローニャ市内のポルティコの総延長は 40 km ほどで、世界最長水準と言われる。制度上は民間の私有財産だが、ポルティコ下の歩道空間などは公共空間として取り扱われており、所有者であっても、占有利用するには市等の認可取得が必要である。

図3 小さな路のプロジェクトの事業エリア



(注) 赤線は当初のプロジェクト対象通り。黄緑線はその後拡大した通り (大まかに図示)。

(資料) Bologna Urban Center Presentation

図4 小さな路のプロジェクトの活動風景



(資料) Bologna Urban Center Presentation

4—インクレディブル事業

高齢化や景気後退による空家や空地、空店舗などの増加に伴うコミュニティの衰退への有効な対応策はわが国でも喫緊の政策課題である。ボローニャ市にて、実際に公共の空家や施設の再利用に向けた取り組みを行う Giorgia Boldrini 女史のお話を聞くことができたので報告する。

1. 事業主体

ボローニャ市の都市経済発展部テリトリー促進・部門間プロジェクト調整室

2. 対象公共物

市が所有している空家や店舗等の施設及び空地。

3. 事業概要

(1) 背景

近年の景気悪化により市所有不動産の空家や空店舗等が増え、この再有効活用が課題であった。一方、世界に冠たる文化芸術産業を発展させるため、長期的に文化創造事業を下支えする後継者や起業家を育成する必要があるとあり、芸術家や若い起業家への支援が課題となっていた。この2つを解決する方策として、インクレディブル（「すごい」というような語彙）事業が促進されることとなった。最終的には、市が所有する公共の空家や施設を、文化創造事業の起業拠点として最大限に活用することによって、地域経済の発展を支援することが目的である。

(2) 事業内容

文化創造事業を起業したいグループからの提案を公募し、審査の上、採択した提案に対し、起業に必要な支援策を講じる。

(3) 事業スキーム

採択された起業家は、事務所・スタジオ・工房などに使える市所有の空家等を最大4年間無償で借り受けることができる（電気代等ユーティリティや修繕費用は起業家負担）。あるいは、起業費用として最大1万ユーロの補助を受けることができる。その他、市の斡旋により、弁護士や会計士、コンサルタントサービスなども無償で受けられる（これらの専門業者は起業家の将来の成長を期待し、無償で起業家を支援する仕組みとなっている）。必要に応じて、宣伝等のプロモーションについても市が支援する。詳細は、<http://www.incredibol.net> を参照。

(4) 事業評価

市は2010年から2015年現在までの公募に対し446提案を受領しており、起業意欲と本事業に対する需要は強いとみている。このうち62事業を採択し、最終的に24起業家を支援した。現状では約半数以上の起業家が成功し、支援がなくても自ら事業を展開できるだけの力量を発揮するようになった。こうした起業家の中には引き続き、支援を受けていた場所を有償で賃貸するものもいれば、活動水準に合わせて他の物件に移転するものもいる。支援を行った起業家が446提案中5%程度というのは、少ないという声もあるが、この種の事業は容易ではなく、きめ細やかさと忍耐が要求されることが分かっていたため、ポローニャ市としては、希望に満ちた成果と考えており、起業意欲を喚起しつつ、今後も着実に推進する方針である。

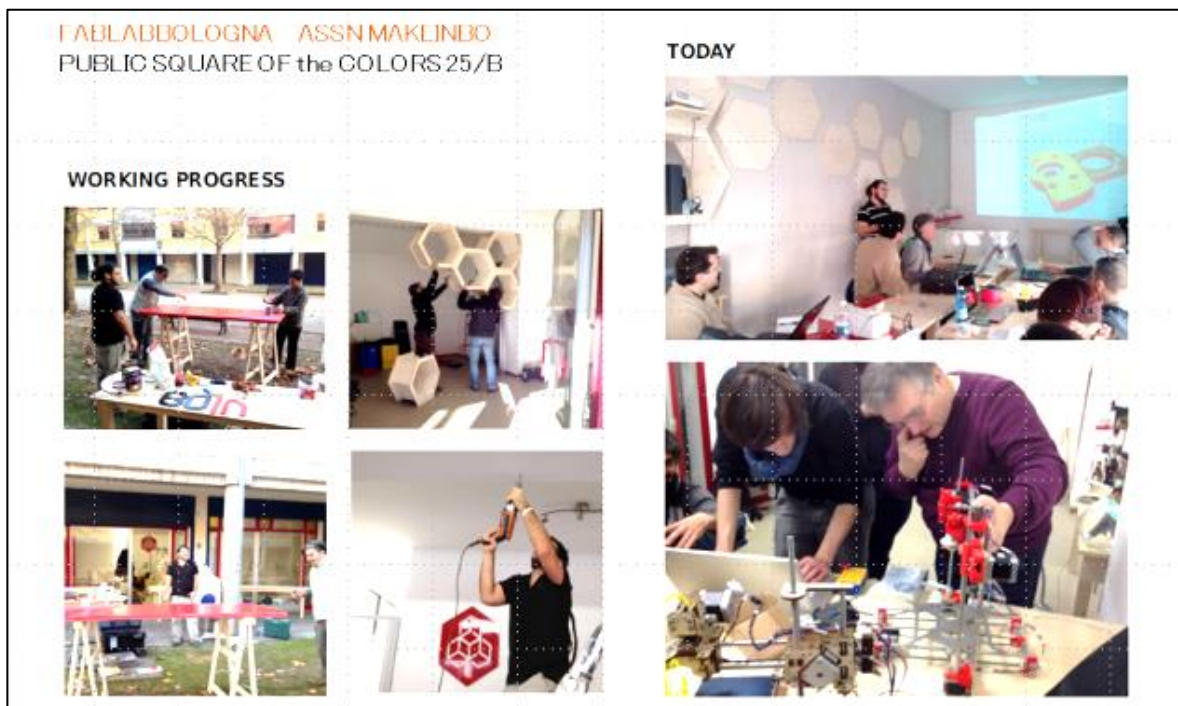
図5 提供されたスペース事例(左:従前、右:従後)



図6 提供されたスペース事例(現状)



図7 提供されたスペース事例(左:修復中、右:現状)



5—ボローニャの公共空間利用のまとめ

ボローニャ市では、市が公共空間の活用をリードする事業として、(1)旧市街地の道路や広場を歩行者と自転車優先の魅力ある空間として整備する T-days 事業、(2)路上駐車帯などの公共空間を非営利組織がコミュニティ活性化のために活用することを認可し支援する小さな路のプロジェクト、(3)空いている公共施設などの空間を起業家への公募と審査を通じて利用させ、支援策を講じることによって、公共施設の再利用を通じた賑わい創出と経済効果、芸術家の育成を同時に行おうとするインクレディブル事業の3事例を紹介した。

直接的あるいは間接的に、公共空間を最大限に活用し、旧市街地やコミュニティの活性化、空家対策と経済振興を図ろうとするボローニャ市の公共的な役割と責任が明確に認識でき、日本の公共のあるべき姿を考える上で大変参考になると考えられる。

今回は、フェラーラ市の公共空間利用の事例を具体的手続きとともにご紹介する。